

平成22年度（4月～6月）

市の主要事業のあゆみ

経済成長戦略の推進

《経緯・趣旨》

現状のままで推移すると、平成31年度の市内総生産が平成19年度と比較して少なくとも8%減少すると予測されています。この非常に厳しい状況を打開するため、さまざまな戦略プロジェクトを盛り込んだ経済成長戦略を策定し、推進しています。

《平成22年4月～6月取組み》

種々の経済成長戦略事業を進めている中で、定住促進事業について紹介します。

■定住促進

田舎暮らしにあこがれ、市外からの移住を希望する方々に、地域の持つ魅力に触れる機会を創出し、本市への定住を促進しています。

○豊岡市空き家情報登録制度

「空き家バンク」の運営

市内の空き家や空き土地物件の登録情報を、利用希望者に提供し、マッチングを行う

います。

※平成21年10月から本制度を開始。登録外物件も合わせると5件成約（6月末現在）

○田舎暮らし体験施設の設置、運営

移住に伴う

気候、習慣などの不安を払しょくし、地域を肌で感じ、



知っていたくための「田舎暮らし体験施設」を、昨年10月に但東町中山に設置し、運営しています。より多くの豊岡を知っていただくため、6月15日には竹野町桑野本に第2号の施設を開設しました。

《7月以降の予定》

・一人でも多くの方に移住していただき、労力の確保や地域の担い手につなげるため、空き家見学ツアーや田舎暮らし体験ツアーを実施します。

・定住促進以外のさまざまなプロジェクトを、各担当課が関係機関・団体と連携し、推進します。

生物多様性関連事業の推進

《経緯・趣旨》

平成22年は国連が定める「国際生物多様性年」。10月には名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（CBD/COP10）が開催されます。

生物多様性とは、さまざまな生きものがかわり合いながら生きていることですが、コウノトリ野生復帰をシンボルとする豊岡の取組みは、生物多様性保全の日本の代表的な例として国内外で高く評価されています。市は、関係団体と連携しながら、市内外でさまざまな生物多様性関連事業を開催していきます。

《平成22年4月～6月取組み》

○生物多様性セミナー（生きものの多様性の保全と事業活動）（4月26日、5月14日、6月11日・25日、名古屋市）延べ310人参加

・三井住友銀行との共催

○国際会議「都市における生物多様性とデザイン（URBio2010）」（5月19日、名古屋市）

・中貝市長が事例報告

○「生きものの共生の日特別授業」子どもが見る湿地」

「湿地夜も夜も話」大人が見る湿地」

豊岡市）73人参加

○日本学術会議公開シンポジウム（5月22日、豊岡市）

150人参加

《7月以降の実施・予定》

○第1回生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA2010）（7月2～4日、豊岡市）約400人参加

○世界一田めになる学校（東京大学）（8月9日、東京都）

・新潟県佐渡市、宮城県大崎市との共催

○SATOYAMA教育インシアティブ（10月5～8日、豊岡市）

○生物多様性条約第10回締約国会議（CBD/COP10）（10月11～29日、名古屋市）

・新潟県佐渡市、山口県周南市、鹿児島県出水市と共同で交流フェアに出展、会議の合間に本市の取組み紹介

○第4回コウノトリ未来・国際かいぎ（10月30～31日、豊岡市）

・県との共催により開催

豊岡駅前広場整備事業

《経緯・趣旨》

現在の

豊岡駅前

広場は、

昭和28年

以降、改

修整備さ

れていな

かったこ

とから、

路線バス

の乗り入

れが1路

線しか

く、鉄道とバス・タクシ

の乗り継ぎが不十分です。ま

た、自家用車やタクシーなど

の車両がふくそうしており、

安全な歩行空間も確保されて

いません。

このため、鉄道とバス・タ

クシーとの乗り継ぎをしやす

くし、JR豊岡駅およびその

周辺の交通の円滑化や安全性

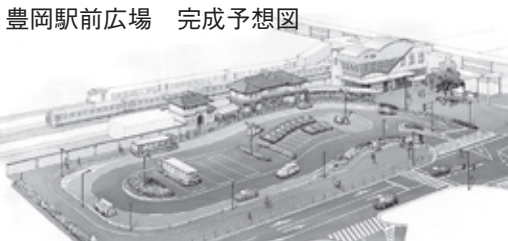
を向上させるとともに、ユニ

バーサルデザインに配慮した

本市の玄関口にふさわしい豊

岡駅前広場を整備します。

《全体概要》



新庁舎建設事業の推進

《経緯・趣旨》

市役所本庁舎は昭和2年に建築されたもので、建物の老朽化、耐震性の不足、執務室の分散化・狭隘化、駐車スペースの不足などの問題があるため、市民サービスや行政効率を向上させるとともに、防災拠点としての機能を備えた新庁舎を建設します。

新庁舎建設に当たっては、豊岡固有の自然・歴史・伝統・文化を大切にするとともに、まちづくりの理念のもと、総合的に判断し、現本庁舎を保存・活用します。

《平成22年4月～6月の取組み》

■実施設計の進捗

新庁舎の本体工事に加えて、現本庁舎の改修工事、駐車場の整備工事、外構工事、仮庁舎の改修工事および既存庁舎の解体工事などについて、より詳細な検討をしています。

仮庁舎の一部として健康福祉部移転後の豊岡健康福祉センターを活用するため、改修工事を7月中に完成する予定です。

《概要》

■現本庁舎の活用

3階

部分は、建築基準法上、そのまま保存・活用することが困難であるため、



国、県などに相談していましたが、3階部分を鉄骨造に替え、耐震性と耐火性を確保することで、法的な問題が解決できる見込みとなりました。

なお、現本庁舎の活用に当たっては、国の社会資本整備総合交付金が活用できる見込みです。

※この経緯は、内閣府のメルマガジン「地域活性化ニュース」でも紹介されました。

《7月以降の予定》

第1回目の仮庁舎移転として、コウノトリ共生部、都市整備部、教育委員会などが、8月下旬に豊岡健康福祉センターなどへ移転します。

防災の取組み

《経緯・趣旨》

平成22年度から総合支所の体制が2課体制となり、職員数が大幅に減少しました。このような中で、市の災害対応能力を維持し、さらに向上させるためには、職員一人ひとりのレベルアップはもとより、本庁と総合支所間の連携を円滑にすることが必要です。

また、大規模な災害に対しては、行政の対応には限界があることから、自助、共助の強化に努めます。

《平成22年4月～6月取組み》

■総合支所の機能向上

○各総合支所に防災担当参事を配置

○各総合支所へ派遣する本庁の職員を指定(241人)

(支所職員と合わせ349人配置)

○地域担当制による技師および保健師の配備

○市職員OBを防災支援員として各支所3人配置

○総合支所調整担当職員を本庁に各2人配置

■職員の災害対応能力の向上

○年間を通じた職員研修の実施

○市民の災害対応能力の向上

○本庁と総合支所で

大雨洪水
防災訓練
実施(6月5日)



《7月以降の実施・予定》

○市民の災害対応能力の向上

○防災啓発番組「防災ワンポイント」の放送

・放送開始: 7月5日(月)

・日時: 毎週月～金曜日午前8時5分～午後6時(各5分間)

・出演者: 防災に関する日本の第一人者

○「防災ワンポイント」の防災行政無線放送(再放送)

・放送開始: 7月19日(月)

・日時: 毎週月・水・木・土・日曜日午前7時30分～午後7時30分

・内容: FMジャングルで放送した内容を2週間遅れで放送する。

○事業期間 平成20年度～平成23年度

○整備面積 5,500平方メートル

○施設整備

・乗降バースの設置(路線バス・タクシー・身体障害者用)

・バス待機場(3台)、タクシー待機場(16台)、待合所(1棟)

・歩道(標準幅員5メートル)・広場照明、緑地、案内サイン設置 など

○関連施設整備

・JR豊岡駅舎移転

・駅前交番移転

・駅前公衆便所新築

・駅前駐車場防火水槽新設

・駅前駐車場および駐輪場再整備 など

○市: 駅前駐車場防火水槽工事着手、物件補償契約

○JR: 現駅舎北側一部取壊し

《7月以降の予定》

市が豊岡駅前広場を整備することに伴い、豊岡駅舎の移転が必要のため、JR西日本は、新駅舎を平成22年度末までに完成させます。